

## 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

### 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	ウォーキングの推進事業（主要事業）								
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	医療健康課	係	健康係	評価票作成者	健康推進担当係長 二宮眞由美	
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			基本施策	成人・老人保健		コード	2 1 1
					単位施策(中)	生活習慣病予防対策の充実		コード	2 1 1 1
	項	健康			単位施策(小)	運動による健康づくりの推進		コード	2 1 1 1 3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	一般市民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	健康アクションプラン21でも重点項目となっている運動習慣、特にウォーキングを生活習慣として取り入れて市民が健康であることが自覚できる				
1-5 事務事業の内容	ウォーキングマップを市民参画で作成し、市民へ配布。またマップを媒体として気軽にウォーキングや散歩ができるように、健康づくり市民ウォーキングを月に1回、ウォーキング推進グループが(ウォーキングマップ作成に係った市民がそのままグループ化される)主導的に実施								

### 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	ウォーキングマップを作成し、ウォーキングに関心が高まる1つの媒体として利用。市民協働事業としての位置づけが定着し、事業拡大につながっている。	ウォーキングに関するイベント、催し物は行政、民間とも行われている。健康をベースとした運動推進の1つとしてウォーキングを勧めていく。さらに関連する課(例：体育課)との連携もすすめる。	対象者が参加しやすい条件を考慮しウォーキングへの関心が高まる情報提供も併せて実施していく。		
平成19年度	「ウォーキングマップのコースを歩こう」の事業は、広報・推進グループ等の口コミを通じたり、月1回の継続で市民に周知をはかった。	青年会議所の防犯を目的としたイベントに協力。今後も、他の事業との協働で付加価値の創造が必要となる。	アンケートを実施し、参加したくなるウォーキングコースの選定や見所を検討。また、ウォーキング参加にあたり、健康への注意事項や知識の習得を求めている。			
平成20年度	毎月のウォーキングを運営している推進グループ員の会議や当日の支援やわかりやすい広報記事掲載に心がけた。	ウォーキングを含めた日常的な運動の継続意欲を、生かせるよう定期的な開催が求められている。	3年目に入ったため、ウォーキングだけでなく付加価値としてコース内の公共施設の訪問を加える等コースに変化を加え参加意欲を図る。			
平成21年度	知識普及のため、ワンポイントアドバイスを実施した。	ウォーキング開催を定着化、PRを強化した。	参加者が増加し、ウォーキングの習慣が身につきはじめている。			
平成22年度	毎月のウォーキングへの参加者が増加している。市民のウォーキング習慣の定着化を図りたい。					
平成23年度	参加者が定着している。より効果的なウォーキングにつながるような意識付けに心がける。					
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名	前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	1日平均ウォーキング時間が30分未満の人の割合(%) (60-69歳)	33.0(%)	28.0(%)	日常生活における身体活動量を増やす具体的な方法として、最も安全で効果的な歩行を増加させることを指標とする。とよあけ健康基本計画21「生活習慣関連調査」

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a (単位)	480(人)	470(人)	480(人)	685(人)	750(人)	631(人)				
直接事業費 b (千円)	241	0	7	3	5	35					
人件費 c (千円)	389	214	173	211	224	216					
合計コスト d (b+c) (千円)	630	214	180	214	229	251					
単位コスト d/a (千円)	ウォーキングの日参加者当たり 1.0	ウォーキングの日参加者当たり 0.5	ウォーキングの日参加者当たり 0.4	ウォーキングの日参加者当たり 0.3	ウォーキングの日参加者当たり 0.3	ウォーキングの日参加者当たり 0.4	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 【直接事業費】ウォーキングカード用紙・名札 5,000円【人件費】3時間×12回×2人=72時間 3,000円×72時間=216,000円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に 対応する実績と達成 度の推移	指標対応実績 (%)			30.5							
	後期目標値 に対する達成 度 (%)			64.3 (%)							

### 3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価	A	A	A	A	A	A				

- 4 段階評価結果
- |                                  |       |                                 |
|----------------------------------|-------|---------------------------------|
| A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する       | 判断の基準 | 必要性 (必要な事務事業であるか)               |
| B : 事務事業の実施手法や環境 (予算的・人的) に改善が必要 |       | 公共性 (公が実施する意味があるか)              |
| C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要           |       | 妥当性 (ニーズに対して投入が適正か)             |
| D : 事務事業の廃止が相当                   |       | 効率性 (結果に至る活動に無駄はないか)            |
|                                  |       | 有効性 (活動の結果が上位の目的に貢献しているか)       |
|                                  |       | 市民満足度 (事務事業が対象にしている市民を満足させているか) |

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	ウォーキングする年齢層を中高年男性へ重点的に強化していく	参加者が身近なところで安全にウォーキングに取り組みできるようにする。	課題を踏まえて職場や企業への働きかけを行う
平成19年度			ウォーキングの正しい知識の普及	ウォーキンググループが主体的にアンケートを実施し、参加者の声を聞きウォーキングが継続され、新たな課題に取り組むようになった。
平成20年度		〃	ウォーキングの正しい知識の普及と参加者の日常的な運動習慣定着の勧め。	コース内にある施設を訪問し、付加価値をつけたウォーキングができた。
平成21年度	安全面を考慮し、楽しんでウォーキングに取り組みできるようにする。		〃	開催時ウォーキングを始め健康について講義を実施する。男性の参加も増加し
平成22年度	ウォーキングに限らず、健康面での知識普及を進めていく。楽しんでウォーキングに取り組みよう高齢者の参加もあるため、安全面を十分に配慮していく。			
平成23年度	ウォーキングを楽しんで参加してもらうこともあるが、交通ルールを守るなどの道路上での配慮も行っていく。			
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

### 4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果	結果		審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
平成19年度	A	一層の参加拡大を図ること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			